東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009 年 1 月 9 日

教訓を含むハディースの例

親愛なるムスリムの皆様。例をあげつつ、比喩を生かしつつ説明するという方法は、歴史を通してあらゆる民族において見られてきました。同様に、イスラームが最初に呼びかけた相手であったアラブ人によっても用いられていました。当然、「教師として遣わされた」とおっしゃられたムハンマドが、このような手段を用いられないことは考えられません。預言者ムハンマドは説明したいことを例を用いて説かれていたことを示す多くのハディースが存在します。当然比喩を用いての説明は、色々な立場にある人々がより容易に理解できる助けとなります。性質上、抽象的である項目を、比喩を用いることによって具体的な、より理解しやすいものとすることになるからです。今日のフトバでは、預言者ムハンマドから伝承されている格言のハディースを示したいと思います。共にこれらの例に耳を傾けましょう。

「私のあり方は、火をおこす人に似ている。火が周囲を照らすと、蛾や小さな生き物が火の中に飛び込もうとする。人がそれらを防ごうとしても、それらは彼を困難な状況に陥れ、火に飛び込み続けることをやめない。そう、私とあなた方のあり方はちょうどこの通りである。私は火から守るべく、あなたがたのベルトをつかみ「火から離れなさい！」という。あなた方は私を困難な状況に陥れ、火に飛び込んでいく。」

「私と、アッラーが私によって送られたものの例は、一人の男の状態に似ている。男はその一族のもとに来て『わが民よ、私はこちらに向かっている軍をこの目で見た。私は明白な警告を与える者である。あなた方は救われようとするべきだ』という。一族のうち一部は彼に従い、夜、少しずつ進む。他の一団は彼を嘘つきだとし、その場に留まる。結果、朝になると軍が攻撃をしかけてきて彼らを滅亡させ、根絶やしにする。そう、私に従順であり、私がもたらしたものに従う人々と、私に対立し私がもたらしたものを偽りであるとする人々の例えはこの通りである。」

「ムスリムたちは互いを愛し、互いをいつくしみ、慈悲を示すという点において一つの体のようである。体の中の一つの器官に困っている状態があれば、他の器官は睡眠不足や発熱によってその器官に同調する。」

「よい友と悪い友の例は、麝香を携えた人と、コークスを吹き飛ばす人に似ている。麝香を携えた人は、それをあなたに贈るかもしれないし、あなたがそれを買うこともできる。そしてそのにおいをかぐことができる。コークスを吹く人はあなたの服を焦がすか、あるいはあなたはその悪臭をかぐだろう。」

「学者たちは天空の星のようである。大地でも海でも、それらのおかげで道を見出すことができる。星が消えれば、そのうち道案内者たちは道をそれてしまうだろう。」

「誰かの家の前に川があり、そこで日に５回身を清めれば、それは彼に一切の汚れを残すだろうか？（教友たちは「いや、何も残しません」と答えた）日に５回の礼拝もちょうどこのようなものである。アッラーは彼の過ちを消される」

「神を唱念する者としない者を例えるなら、生きている者と死者のようである。」

「信者はナツメヤシもしくはハチに似ている。ハチは清いものを食し、清いものを生産する。また信者はまじりけのない金のようである。火に投げ込まれても、やはりまじりけのない金として出てくるのだ。」

「信者を例えるなら、風が、乾いてしまうまで左右にゆさぶり、時には地に倒し、時には引き起こす穀物の枝のようである。最後には寿命がくる。偽信者たちを例えるなら、自らに何もあてず、まっすぐしっかりと立っているガラスの木のようである。しかしこの木が抜かれるのは、一度の衝撃で実現されるものとなる。」

「サダカを差し出し、その後そのサダカを断念する人の状態は、吐いたあとでその吐いたものを食べる犬に似ている。」

「クルアーンを読む信者は柑橘類に似ている。香りもよく、味もよい。クルアーンを読まない信者はナツメヤシに似ている。香りがなく、味はよい。クルアーンを読む偽信者はしそに似ている。香りはよいが、味は苦い。クルアーンを読まない偽信者はアブー・ジャフルのすいかに似ている。香りはなく、味も苦い。」

神が、比類なき教師の道を行くこと、ハディースを正しく理解し、他の人々にも教えることにおいて私たちを成功させてくださいますように。